

団体名	たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」
活動テーマ	東日本大震災 被災地生活基盤再生のお手伝い活動



2011年3月に「備えと構え」で減災を目指す、をテーマに地域住民が集まって活動を開始した私たちは、各地で頻発する災害時の被災地支援をその都度いろいろな形で行ってきた。被災地での労力支援ができない場合にはネットワークを通じて被災地が必要とすることに対しての後方支援をしてきた。親切の押し売りになることを避けることもボランティア活動の大事な部分と考える。今回の震災での津波被害地においては、当初直接必要とされる物資（瓦礫の中から見つかった個人の持ち物の中が見えるように入れるための透明のビニール袋や仮設住宅でコミュニティを作るためのバザーを開催する生活用品の寄付など）を届けるという後方的支援を行っていた。しかし、私たちが本来なら直接の労力支援をすることを選ばない遠隔地へ出かけることになったのは、原子力発電所の事故があったからである。それは、私たちが暮らす滋賀県高島市や長浜市が、他人ごとよそ事テレビの中の出來事では済まされない環境にあるということが大きな要因である。原発反対を叫ぶ団体や個人ではないが、このようなことが起こると「明日はわが身」と考えるのは自然である。原発事故の被害を直接受けた被災地を見て、聞いて、感じて、知ることが大事と考えたからである。そして何よりも、いつどこで何が起こるかわからない今、困ったときはお互いさまという気持ちに動かされての活動であり、住民が一日も早く住み慣れた地域に戻ることができたらという一心である。昨年7月に避難指示解除が決まるまでは、個人の敷地の整備を行っていてもここで生活が再会されるのが見えなかったが、目に見えて町に生活感が戻ってきたことを感じられ、作業に対するモチベーションにつながっている。